

## 健康福祉イベントの中止と健康づくり活動パネル展のお知らせ

例年、秋に開催していた次の健康福祉イベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、健康づくり啓発のためのパネル展を開催します。

### 【中止する催し】

- ・令和3年度むかいしま健康福祉まつり(10月16日(土)開催予定を中止)
- ・令和3年度尾道市御調地区健康福祉展(10月23日(土)開催予定を中止)
- ・第39回おのみち市民健康まつり(11月14日(日)開催予定を中止)

### 【健康づくり活動パネル展を開催します】

#### ■御調保健福祉センター

10月26日(火)～11月4日(木)※土・日・祝日を除く。

#### ■総合福祉センター

11月12日(金)～14日(日)

※来場の際はマスクを着用し、密にならないようご配慮ください。

健康推進課(☎0848-24-1962)

御調保健福祉センター(☎0848-76-2235)

## 骨髄バンクにご協力ください

白血病など血液疾患の治療には、善意の骨髄提供者(ドナー)の存在が不可欠です。

市では、ドナーと、ドナーを雇用する事業所に対し、助成金制度を行っています。詳しくはお問い合わせください。

健康推進課

(☎0848-24-1961)

## 10月は臓器移植普及啓発月間です

誰もが、臓器を提供する・移植を受ける、どちらの立場にもなる可能性があります。一人ひとりが家族と話し、意思を表示することが大切です。

臓器提供の意思はNOでもいい、だから表示してください、あなたの今を。

広島県医療介護人材課

(☎082-513-3062)

## まめまめ通信99 コロナ禍だからこそ、もっとお口を元気に! 体を丈夫に!

会話の減少などによるお口の乾燥や、在宅勤務などによる食生活の乱れから、むし歯や歯周病が発症・重症化しやすくなっています。放っておくと、お口やのどの免疫力が下がってウイルスの侵入を防ぎにくくなります。お口の機能が低下していませんか?まずはセルフチェックしてみましょう。

むせる・食べこぼす



食欲がない  
少ししか食べられない



柔らかいものばかり食べる



活舌が悪い  
舌が回らない



お口が渇く  
においが気になる



自分の歯が少ない  
あごの力が弱い



当てはまる場合は、**オーラルフレイル**(口腔機能の虚弱)のサインかもしれません! オーラルフレイルはやがて低栄養や筋力低下など全身の機能低下へと進み、要介護状態・介護度の悪化へとつながる可能性が高くなります。日頃のセルフケアだけでなく、**歯っぴー検診**や歯科定期健診を受け、お口の健康を保ちましょう。

健康推進課(☎0848-24-1962)

## こんにちは市民病院

## 感染予防のスペシャリスト「感染管理認定看護師」のご紹介



感染管理認定看護師  
だいばたけ みつり  
代畑 光教

私は、2020年度認定看護師認定審査を受験し、感染管理認定看護師の資格を取得しました。認定分野である「感染管理」は、病院をはじめとした施設の中心となって、多職種と協働しながら医療関連感染の予防と管理を推進していく役割があります。感染管理認定看護師は、全国に2977人、広島県内では71人が認定されています(2020年12月現在)。

資格を取得するためには、認定看護師教育機関で約700時間におよぶ教育カリキュラムの研修を受講する必要があります。そのため、横浜にある神奈川県立保健福祉大学実践教育センターで、医療を提供する場における感染管理の専門的知識や技術を学びました。

感染管理認定看護師は、医療や介護を必要とする人々が利用する病院等が主な活動の場です。そういった施設の中では、医療に関連した感染症を起こす可能

性があります。認定看護師には「実践」「相談」「指導」という3つの役割があり、認定分野である感染管理では、医療に関連した感染の予防と管理について、病院で働く全ての職員・患者やその家族に対する支援を行う必要があります。

当院には感染管理認定看護師が私を含め2名在籍しています。1名は医療安全部の感染制御室に在籍し、組織横断的に活動することで院内全体の包括的な感染管理を実践しています。私は病棟に在籍しており、臨床現場における感染管理として、現場スタッフと協働して新型コロナウイルス感染症などの感染予防のための看護やケアの実践を行っています。また感染管理認定看護師だけではなく、感染制御に関連した資格を有する医師や薬剤師、臨床検査技師などの多職種でチームを組み、院内感染防止のための取り組みと活動を行っています。

私には、患者やそのご家族、そして病院で働く職員も含め、すべての人々を感染から守る役割があります。そのためにも、様々な職種と連携し、病院だけでなく尾道地域で、感染予防を行う活動に尽力していきたいと思えます。

尾道市立市民病院(☎0848-47-1155(代))

## 医師会 だより #26



## 子宮頸がんワクチンのすすめ

子宮頸がんは子宮の入り口にできるガンです。その原因はヒトパピローマウイルス(HPV)で、性交渉で感染します。予防・早期発見には、頸がんワクチンの接種とがん検診が重要です。

子宮頸がんは比較的若い年齢で発病します。早期に見つければ予後は良好ですが、子宮を失う可能性もあり、妊娠や分娩を希望する女性にとっては不都合な病気です。10代の女性に子宮がん検診をすることもありますが、無症状でも異常を認めるケースは少なくありません。がんによる不正出血がある場合は既に早期のがんではない可能性があります。がんの進行状況によっては、ご本人・ご家族にとって大変つらい経過をたどることがあります。早期の子宮頸がんはしばしば無症状のため、症状のない方でもがん検診が望まれます。

積極的に子宮頸がんを予防するには頸がんワクチンの接種が必要です。初回性交渉以前に接種を終えるのが最も効果的です。小学校の高学年から高校1年生までの間でワクチン接種を受けると公費の対象となります。それ以降の年齢では自費になりますが接種が望まれます。頸がんワクチン接種によ

り約90%の感染予防効果が得られます。ワクチン接種が進んでいる欧米の国では子宮頸がんに関連するHPVの感染率は劇的に低下しています。

ワクチン導入当初、接種後に持続的な疼痛などの重篤な症状がみられたことが問題となりました。その後WHOのワクチンの安全性に関する委員会が、安全性に関して評価を行い、ワクチン接種と疼痛・運動障害を含む多様な症状との因果関係を示す科学的根拠はないと結論付けています。

日本は先進諸国の中で最も頸がんワクチン接種が遅れている国です。将来、世界各国で子宮頸がんの減少が予測されている中で、このままでは日本では子宮頸がんの罹患率、死亡率が低下しない状況が予測されます。ちなみに産婦人科の医師で、自分の娘に頸がんワクチンを接種しない事を選択する方がいるとは思えません。自分の娘がノーガードで社会に出る事を許すでしょうか?

尾道産婦人科医会

吉原英介先生

■次回は広報おのみち

令和4年6月号に掲載予定です。